

# 蔵本浩司

学級  
木版画

KURAMOTO HIROSHI & NAGAO NORIHISA

生徒  
型絵染

# 長尾紀壽

二人展



2012年  
4月11日 [水] — 16日 [月]  
11:00~18:00 (最終日16:00まで) 会期中無休

Art Garden 岡山アートガーデン  
〒700-0031 岡山市富町1-8-6 TEL&FAX 086-254-5559

60有余年前、同じ町内に住んでいた長尾君と共に入学したのが弘西小学校「蔵本学級」です。先生の指導のもと図画クラブに入り、写生大会に参加し楽しかったことを思い出します。彼とは中・高とも一緒でしたが、彼は蔵本先生の影響もあり京都美大に進み、その才能を磨いたと思われます。蔵本先生は県内の美術教育に力をそそぎ、版画制作は退職後も今日まで精力的に続けられ、毎年送っていただく年賀状を楽しみにしている者です。私は長尾君とは違い、全く芸術とは離れた分野の職業を選びその間を過ごしました。しかし、毎年仲間と一緒に先生宅を尋ね、酒をくみかわしています。その席で二人が共同で展覧会の計画をときき、門外漢である私が思うに、このような師弟関係はめずらしく、卒寿を迎えられる先生と昨年古稀を迎えた長尾君とのコラボは半世紀にわたる交流がどのような結実に、また融和と触発はどのような表現にと期待し楽しみにしている次第です。二人に乾杯

税理士 国富樫雄

# 蔵本浩司 学級木版画 & 生徒型絵染 長尾紀壽

## 祝“卒寿展”

蔵本浩司さんは私より二つ年上。昭和のはじめ岡山池田藩の藩校のあった女子師範学校付属小学校校庭の泮池や旧講堂、それに巨大な老松の林の中を走り回っていた頃からのなじみです。「こんど卒寿展をするんじゃない、何か書いてくれ」と声がかかった。

何しろ根っからの子供好き、先生になっても、校長になっても、学校中で遊ぶことを一生懸命考えていた方、西日本美術教育研究会そして岡山県・市小学校図画工作教育研究会のリーダーとして活躍されていた頃から、子供主題の版画を発表されていた。歌詩を添えたユニークなものでした。それに「岡山むかしばなし」(日本標準)「岡山の伝説」(同)などに投入されたカットなど個性的、造型的であるとい感性に満ちた作品は、小さなものですが“最敬礼”です。

今回はかつての教え子の方との二人展です。どんな展示になるのか今から楽しみにしています。

日本美術家連盟会員 金谷哲郎

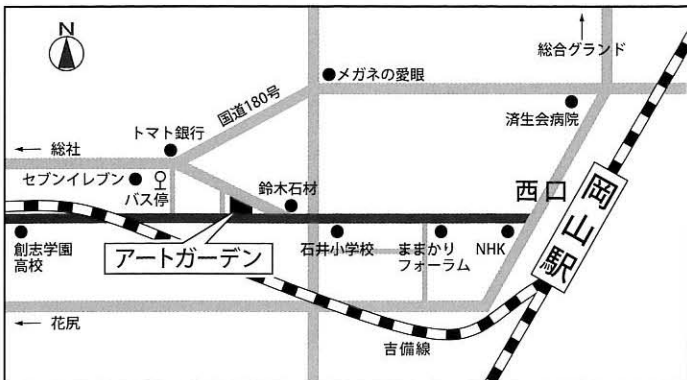


## 蔵本浩司 ■ KURAMOTO HIROSHI

- 1922年 岡山県笠岡市に生まれる
- 1943年 大阪第一師範学校卒業。大阪市教員となる
- 1944年 岡山県に転出。岡山市立弘西小学校着任。
- 1982年 岡山市立犬島小学校退職まで教職。退職後、木版画制作に取り組む
- 1952年 第2回年賀状版画コンクール以降、第9回まで連続入賞
- 1987年 第12回岡山県教育職員美術展以降連続入賞、以降招待第1回個展開催、以降4回個展開催

- 1990年 岡山県現代洋画選抜展に出品
- 1997年 岡山城築城400年記念岡山の四季コンテスト入賞

その他: アムネステイ岡山 蔵本浩司グリーティングカード制作、岡山県盲学校校章等6校園章デザイン、岡山のむかし話(日本標準)、絵本・岡山のむかし話(山陽新聞社)挿絵担当、月刊解放教育(明治図書)扉連続担当  
〒703-8256 岡山市中区浜2-5-23



巷では農業への関心が高まっているようだ。「マルセル・デュシャンも隣の農家のおっちゃんも同じくらいに格好いい」とは友人のアーティストの名言だ。沖縄の染色家・長尾紀壽氏も自身を「ハルサー」(沖縄の方言で「農家の人」と呼び、広大な畑で野菜やパッションフルーツを育てている。

岡山に生まれ、京都市立美術大(現同市立芸術大学)に進学した同氏は、稲垣稔次郎の作品に感銘を受け、型染の世界へ本格的に足を踏み入れた。17年前、縁あって沖縄県立芸術大学の教授に就任。6年前に退官した後も沖縄に根付き、作品の制作と作物の生産を楽しむ日々を送っている。

先日、沖縄を訪れた際、佐喜真美術館で同氏の回顧展をみる事ができた。祭祀をテーマにした京都時代の作品から最新作「現在の想い(いまのうむい)」[アメリカセンダングサとミツバチ]まで、20点が並んでいた。

なかでも私の胸を打ったのが畑仕事から想を得た仕事だ。同氏は従来、モノトーンを基調にし、同じ型を緊密に並置することで凝縮された異空間のような世界をつくりだしてきた。近年、鮮やかな青空が広がり、農耕器具が愛らしいアイコンよろしく散らばり、真っ赤なパッションフルーツがたわわに実るようになった。最新作ではヘリコプターやジェット機までもが空を飛び交っている。融通無碍な画面作りが見る者の目を悦ばせるが、同時に幾重にも折り重ねられたイメージの層が見る者の想いを沖縄という土地の混淆した歴史や文化へと運ぶことになる。

「自然の力を前にして人はとても無力です。しかしそのことを受け入れ、諦めてこそ、農業の悦びを享受することもできるのでしょう」と語ってくれた長尾氏。画面に浮遊する真っ赤な果物がまるで人の霊、あるいは命そのもののように見えてくるのは、私ひとりではあるまい。

(2011.7.7 日本経済新聞掲載より抜粋)  
福岡県立美術館 学芸員 竹口浩司

## 長尾紀壽 ■ NAGAO NORIHISA

- 1940年 岡山市に生まれる(～1959 弘西小学校・旭中学・朝日高校)
- 1964年 新匠会展初出品、以後現在まで出品 稲垣賞3回('91'95'03)、新匠賞('98)
- 1966年 京都市立美術大学専攻科修了
- 1994年 染・アート展(京都市美術館)優秀賞  
現代の型染展「くりかえすパターン」(東京国立近代美術館工芸館)
- 1995年 沖縄県立芸術大学美術工芸学部教授就任  
現代・京都の工芸展(京都文化博物館)、第5回染・清流展(以後6、8～18回展)
- 1998年 天理ビエンナーレ展('98'99'01'03'05)、京展 市長賞
- 2000年 初個展(岡山シンフォニーホールイベントホール)
- 2001年 京都の工芸inエディンバラ展(エディンバラ市シティーアートセンター/イギリス)
- 2002年 第1回利根山光人ビエンナーレ(北上市/岩手県'04'06)
- 2003年 前進する工芸(広島市民交流プラザ)同'04(田辺市立美術館/和歌山)
- 2005～06年 沖縄県立芸術大学退任記念展(県立芸大資料館、那覇市民ギャラリー/沖縄)
- 2007年 テキスタイルの未来形(沖縄)同'08(北海道)同'09(福岡)  
「祭を染める田島征彦・長尾紀壽二人展」(染・清流館)
- 2008年 「沖縄・タイ国際交流美術展」(沖縄・タイ)
- 2009年 「長尾紀壽・武田浪作品展」(ばるあーと/京都)  
「長尾紀壽型染展」(ヒルゲート/京都)
- 2010年 「長尾紀壽・武田浪作品展」(リウボウ美術サロン/沖縄)
- 2011年 「伊砂利彦追善展 反復のリズム・集約の美」(染・清流館/京都)  
長尾紀壽展「祀りから沖縄へ」(佐喜真美術館/沖縄、熊本市現代美術館)
- 2012年 第46回沖縄タイムス芸術選賞大賞受賞  
〈作品所蔵館〉東京国立近代美術館工芸館、  
沖縄県立美術館・博物館、染・清流館、  
沖縄佐喜真美術館、熊本市現代美術館  
〒901-0221 豊見城市宇座安333

Art Garden

## 岡山アートガーデン

〒700-0031 岡山市富町1-8-6  
TEL & FAX 086-254-5559  
http://www.art-garden.com/  
E-mail:art-garden@mqc.biglobe.ne.jp

